

製品名: バソヒビンウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19716**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	40kDa

抗原情報

遺伝子名	VASH1
別名	VASH1; KIAA1036; VASH; Vasohibin-1
遺伝子 ID	22846.0
SwissProt ID	Q7L8A9
免疫原	抗血清はヒト VASH1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 261-310

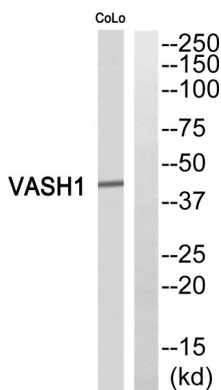
背景

注意:おそらく分泌されますが、標準的なシグナル配列がありません。機能:血管新生阻害剤。血管新生だけでなく、内皮細胞による遊走、増殖、ネットワーク形成を阻害します。この阻害効果は内皮細胞に選択的であり、平滑筋細胞や線維芽細胞の遊走には影響しま

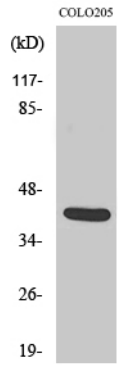
せん。in vitro では癌細胞の増殖には影響しませんが、腫瘍の増殖と腫瘍血管新生を阻害します。オートクリン様式で作用します。動脈新生内膜形成とマクロファージ浸潤を阻害します。ヘパリン結合活性を示します。誘導:VEGFによる。PTM:2つの主要なフォーム(42 kDa と 36 kDa)と2つのマイナー(32 kDa と 27 kDa)がタンパク質分解によって切断される可能性があります。最大のフォーム(42 kDa)は分泌され、もう1つの主要なフォーム(63 kDa)は細胞内または細胞周囲環境に蓄積されるようです。Met-77からArg-318からなるポリペプチドは27 kDaの形態に相当し、Met-77からVal-365からなるポリペプチドは36 kDaの形態に相当する可能性があります。類似性:バソヒビンファミリーに属する。組織特異性:内皮細胞で優先的に発現する。胎児の臓器で高度に発現する。脳と胎盤で発現し、心臓と腎臓では低レベルで発現する。アテローム性動脈硬化病変の微小血管内皮細胞で高度に検出される。注意:おそらく分泌されるが、標準的なシグナル配列を欠いている。機能:血管新生阻害剤。血管新生だけでなく、内皮細胞による遊走、増殖、ネットワーク形成を阻害する。この阻害効果は内皮細胞に選択的であり、平滑筋細胞や線維芽細胞の遊走には影響しない。試験管内における癌細胞の増殖には影響を及ぼさないが、腫瘍の成長および腫瘍血管新生を阻害する。オートクリン様式で作用する。動脈新生内膜形成およびマクロファージ浸潤を阻害する。ヘパリン結合活性を示す。誘導:VEGFによる。PTM:2つの主要な形態(42 kDa および 36 kDa)と2つのマイナーな形態(32 kDa および 27 kDa)がタンパク質分解によって切断される可能性がある。最大の形態(42 kDa)は分泌され、もう1つの主要な形態(63 kDa)は細胞内または細胞周囲環境に蓄積すると思われる。Met-77からArg-318からなるポリペプチドは27 kDa形態に相当し、Met-77からVal-365からなるポリペプチドは36 kDa形態に相当する可能性がある。類似性:バソヒビンファミリーに属します。組織特異性:内皮細胞で優先的に発現します。胎児臓器で高発現。脳と胎盤でも発現し、心臓と腎臓でも低レベルで発現。動脈硬化病変の微小血管内皮細胞でも高発現。

研究分野

画像データ



VASH1 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンには VASH1 ペプチドでブロッキングされている。



ヴァソヒビンポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。